

## 鶴岡市総合計画審議会 第4回企画専門委員会（会議概要）

- 日 時 平成30年8月27日(月) 午後3時から
- 会 場 庄内産業振興センター 第1・第2研修室
- 委員発言の概要

### めざす都市像とまちづくりの基本方針の決め方について

- ・めざす都市像は一つ。まちづくりの基本方針は複数で、7つの章の上に3つくらいがのる形がよい。俯瞰して上から見て決めていきたい。委員意見を前もって集めて決める。

### 未来創造のプロジェクトについて

- ・プロジェクトがカギ。プロジェクトのコンセプトと章があって、やるべき姿が見えて良い。何をやるか取捨選択を示したことは評価する。
- ・6つのプロジェクトに優先順位があるわけではなく、1～6までの番号を振る必要はないと思う。一番目に子育てからやるのだというふうに理解されてはいけない。
- ・未来創造プロジェクトは、プロジェクトチームを組んで部署横断的にやらなければ出来ないものを6つ選んだだけで、これだけに取り組むという誤解を招かないようにする必要がある。未来プロジェクトは計画の後ろに載せるべきものではないか。
- ・「2. 未来先導型農業プロジェクト」については、「農業」と言うことで限定的になってしまうので、林業や水産業などの視点も加えた方がよい。
- ・各章からの積み上げで未来プロジェクトがつけられるのではなく、市民の議論の中からプロジェクトが生まれてくるものと思う。
- ・攻めと守りがあり、6つのプロジェクトは矛と盾の矛にあたる。
- ・市民の意見が何らかの形で表現されており、接点や共通点を持てる形のもので出せばよいと思う。市民が自信を持てるようなことを考えていかなければならない。

### 基本計画における地域振興の章について

- ・7つ目の章として「地域振興の章」をあえて項目立てする必要があるのか。せっかく合併しているのに、分断するような形が果たしてよいのか。
- ・鶴岡市は合併して一つのまちになっている。あえて分けることで対立軸に触れるような気がする。未来志向の中で、地域振興の章は不要ではないか。まちづくり基金事業にしても、旧町村で勝手に使いなさいというふうになってはいけない。
- ・各庁舎は生き生きと仕事をしていない。そこに喝を入れるため予算を持たせ、各庁舎が責任を持ってやるべき。庁舎が生き生きと仕事をするために予算・権限を与えなければならない。
- ・旧鶴岡市も一つの節として入れるべき。天神祭や赤川花火、海岸部の話も盛り込んでいくべきである。

- ・旧鶴岡市の中心部の方が、旧町村部よりも道路や下水設備の整備は遅れているように感じる。節として、鶴岡地域の課題として載せるべきではないか。
- ・各地域の役割は書き方次第ではないか。旧市町村ごとの得意な分野をプロジェクトとして役割を担うように書けないか。差別ややらされ感が生じないようにすることが必要。
- ・広い年代の人が共に生きている中で、6つのふるさとがあり、1つにしていくにはまだ時間がかかると思う。
- ・地区別の計画があるのはあたりまえだと思う。鶴岡地域の計画があってもいいと思う。
- ・中央、地方といった誤解がないような表現にしていくべき。ドライに6つの地域があるとしてもいいと思う。

#### 構成等について

- ・基本構想の中に、計画の構成として基本構想、基本計画と表記されるとわかりにくい。
- ・基本計画の7つの章立ては良いが、未来創造のプロジェクトとの関連がよくわからない。市民の声が未来プロジェクトに反映されていることが大切。
- ・完成品の冊子は、読み手の年代やターゲットも考え、中学生くらいがわかるようになるべく行政用語を使わず、注釈などもつけて皆がわかるようにする必要がある。
- ・工程表のようなものがあれば良い。10年間でどこまでやるか、どうなるかとイメージ出来るようにすべき。
- ・住んでみたくなるまちに、この項目だけでなるのか。抜けているものを加える必要がある。
- ・総合計画は全体計画として抽象的になるので、ロードマップ的なものは実施計画の中で具体化していけばよい。